

過去の災害を知り、次に備える

令和2年7月豪雨では、最上川の水位(大石田観測所)が観測史上最高となる18.59mを記録しました。これは、未曾有の大災害となった昭和42年の羽越水害で記録した16.87mを1.72mも上回るものでした。早めの避難行動により、人的被害はなかったものの、住宅被害は、床上・床下浸水を合わせて98棟にも上りました。また、豊田地区にある上水道水源場が冠水したことから、次年子地区を除く町内全域で4日間に渡る断水が発生しました。私たちは過去の災害から学び、明日起こるかもしれない災害に備えなければなりません。



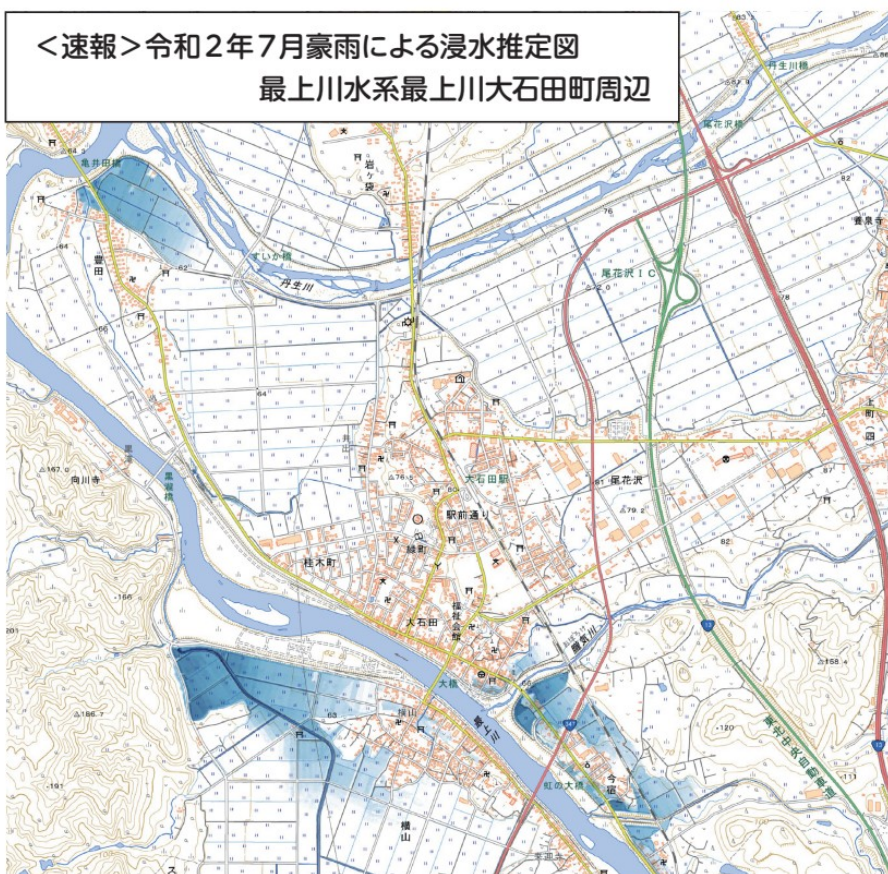
新町・今宿地区：最上川と隴気川の合流部

7月28日、降り続く雨による土砂災害発生の懸念から、町は午前11時30分に次年子地区に避難準備情報を発令。午後には最上川の水位上昇が予想されたことから、浸水の恐れがある地域を対象に避難準備情報、続いて避難勧告を、午後7時には避難指示を発令しました。



水位が橋の路面を越える
(令和2年7月29日午前0時頃)

<速報> 令和2年7月豪雨による浸水推定図 最上川水系最上川大石田町周辺



豊田地区：上水道の水源場が浸水



新町地区：住宅が浸水

この地図は、国土地理院が令和2年7月29日11時までに収集したSNS画像と標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さを濃淡で表現した地図です。時点情報のため、最大浸水範囲を示したものではありません。実際に浸水のあった範囲でも把握できていない部分、浸水していない範囲でも浸水範囲として表示されている部分があります。令和2年7月29日12時作成
出典：国土地理院ウェブサイト

(https://www1.gsi.go.jp/geowww/saigai/202007/shinsui/09_02_shinsui_mogami_oishida.pdf)
よりダウンロードし、レイアウト調整および発生年を加筆。